

今後の管理のポイント

- ・水深 3 cm 程度の浅水で管理し、有効茎確保まで分けつの発生を促しましょう。
- ・雑草の発生が多い場合は、中・後期剤による除草を行いましょう。
- ・補植用残苗はいもち病の発生源となるので、早急に処分しましょう。

1 気象の概況

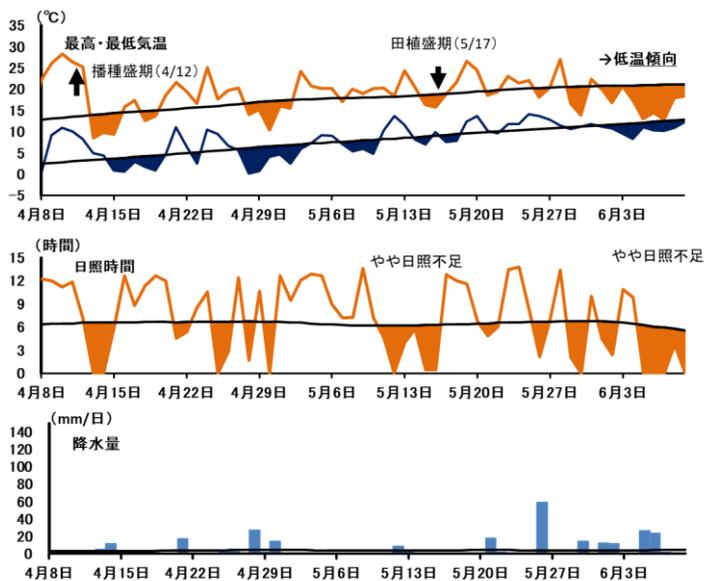


表 1 気象経過 (気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)		日照時間(h)		降水量(mm)	
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
4月 中旬	10.2	1.3	81.8	123%	21.0	64%
4月 下旬	12.4	1.6	68.8	101%	53.5	124%
5月 月上旬	12.4	-0.2	97.0	154%	15.0	37%
5月 中旬	14.8	1.3	59.1	95%	11.5	28%
5月 下旬	15.7	0.4	78.2	109%	93.0	200%
6月 月上旬	13.6	-2.7	41.5	64%	76.5	194%

- ・5月までの気温は平年並からやや高い
- ・6月上旬の平均気温はかなり低い、中旬以降は平年より高くなる見込み

図 1 気象経過図 (気仙沼アメダス：4月8日

～6月10日)

2 水稻生育調査ほの生育概況

表 2 水稻生育調査結果 (6月10日調査)

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/11	20.7	23.0	302.2	32.5
	前年比・差	-1	105%	89%	71%	-3.8
	平年比・差	-4	105%	89%	98%	-4.2
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本 年	5/11	19.2	25.3	236.2	31.9
	前年比・差	-2	105%	94%	80%	-5.2
	平年比・差	-2	107%	89%	83%	-7.9

注 1) 平年値は平成 29 年から令和 3 年までの 5 か年の平均値 (志津川は平成 30 年からの 4 か年平均)。
 注 2) 葉数調査は令和 4 年から実施なし。

- ・管内の生育調査ほにおける 6 月 10 日現在の生育は、草丈が概ね平年並からやや少なく、葉色はやや低くなっており、低温の影響を受けたものと考えられます。
- ・m²当たり茎数は植付本数が少なかったため、いずれも前年より少なくなっていますが、移植時からの増加率は本吉 286%、志津川 300%で、いずれも平年 (各 293%、294%) 並となっています。

3 今後の管理の留意点

【水管理】，【ガス発生軽減】・詳細は第3号参照

→低温時は、保温のため5cm程度の深水管理としましょう。

【中干し】

- ・中干しは、根の活力の向上、無効分げつの発生抑制、作土層の硬化促進などの効果があります。有効茎数（表3）を確保したら、幼穂形成期（7月上旬頃）までに完了できるよう、早めの実施しましょう。
- ・中干しは、「田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく」程度とします。

表3 品種別有効茎確保期（中干し開始時期）の目安（宮城の稲作指導指針（基本編）県栽培ごよみ）

品種名	時期	中干し開始時の ㎡当たり 茎数（本）	田植時の設定株数	
			50株/坪(15.2株/㎡) の場合 1株当たり本数	60株/坪(18.2株/㎡) の場合 1株当たり本数
ひとめぼれ	6月20日頃	310～360	20～24	17～20
ササニシキ	6月25日頃	460～500	30～33	25～28
まなむすめ	6月20日頃	460～500	30～33	25～28
みやこがねもち	6月30日頃	380～430	25～28	21～24

【雑草防除】

- ・初中期一発剤を散布したほ場でも、水持ちが不十分だったり、埋土種子や多年生雑草の塊茎などが多かると、雑草が発生してきます。成長が進むと除草剤の効果が得られなくなるため、雑草の種類や葉齢を確認し、中・後期剤等を適期に施用しましょう。
- ・ヒエやイヌホタルイ等の雑草は、稲の出穂前にカメムシ類を水田に呼び寄せます。イヌホタルイやシズイにもアカスジカスミカメが寄生・産卵しますので、雑草対策を徹底し、斑点米発生による落等を防ぎましょう。

【病虫害防除】

① いもち病

- ・補植用の残苗は、本田でのいもち病の発生源となります。まだ残苗がほ場にある場合は、早急に処分しましょう。
- ・箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、水面施用剤（粒剤、パック剤）を初発の1週間前まで（6月中旬頃まで）に散布しましょう。
- ・箱施用剤等による予防防除を実施した場合でも、発病が見られたときは、速やかに茎葉散布剤で防除してください。
- ・葉いもち病は、直接収量や品質に影響を及ぼす穂いもちの伝染源となります。予防防除が管理の基本であり、発病が進展してからの防除では十分な効果が期待できないため、水田をこまめに見回り、早期発見と防除に努めましょう。

※発生予報については、宮城県病虫害防除所が公表している「葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM)」も参考にしてください。

(URL: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>)

② イネドロオイムシ

- ・卵塊密度が100株当たり80個になっている水田では、幼虫ふ化盛期に幼虫を対象とした水面施用剤や茎葉散布剤による防除を行ってください。
- ・6月の気象が曇雨天で経過すると成虫の産卵期間が長引き、幼虫の加害期間も長くなります。今後の気象経過に注意し、発生が長引く場合は追加防除を実施しましょう。
- ・殺虫剤を育苗箱処理した水田でイネドロオイムシの発生が多い場合は、薬剤抵抗性が発達している可能性がありますので、普及センター等にご相談ください。

○「だて正夢」の栽培管理について

表4 だて正夢現地栽培技術普及展示の生育調査結果（6月10日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
だて正夢 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/11	21.0	29.2	218.4	32.8
	前年比・差	-3	100%	93%	47%	-9.4
	平年比・差	-3	106%	94%	88%	-6.8

注) 平年値は平成29年から令和3年までの5か年の平均値。

- ・前年の茎数が過剰だったため、本年は植付本数を減らしています。このため、茎数は前年、平年より少なくなっていますが、標準的な茎数は確保しています。
- ・今後は低温時以外は浅水（3cm程度）で管理し、分けつ発生を促しましょう。

目標穂数 350~450 本/㎡

○「金のいぶき」の栽培管理について

表5 金のいぶき現地栽培技術普及展示の生育調査結果（6月10日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
金のいぶき 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/11	19.4	23.3	246.4	31.1
	前年比・差	±0	102%	83%	77%	-10.6
	平年比・差	-	-	-	-	-

注) 令和3年から設置のため、平年値はなし。

- ・前年の茎数が過剰だったため、本年は植付本数を減らしています。このため、茎数は前年、平年より少なくなっていますが、標準的な茎数は確保しています。
- ・今後は低温時以外は浅水（3cm程度）で管理し、分けつ発生を促しましょう。

目標穂数 440~490 本/㎡

○湛水直はの栽培管理について

表6 湛水直は現地栽培技術普及展示の生育調査結果（6月10日調査）

品 種 地区名		播種日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/7	19.4	16.5	64.4
	前年比・差	+1	90%	88%	27%
	平年比・差	-5	94%	93%	41%

注) 平年値は平成29年から令和3年までの5か年の平均値。

- ・前年の茎数が過剰だったため、本年は播種量を減らしています。
- ・今後は低温時以外は浅水（3cm程度）で管理し、分けつ発生を促しましょう。

○東北地方の1か月予報（6月11日～7月10日までの天候見通し）によると、予想される向こう1か月の天候は下記のとおりです。

気温は平年並か高く、降水量・日照時間はいずれもほぼ平年並みの見込みです。

（仙台管区気象台 令和4年6月9日発表）

（https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=040000&term=1month）

○気象から見た栽培管理のポイント

→浅水管理で分けつを促し、6月下旬までに目標茎数を確保しましょう。

→気温の上昇に伴い、雑草の生長も急速に進むため、中・後期除草剤の施用時期が遅れないよう注意してください。

→6月下旬にかけていもち病が発生してきます。発生予報も確認しながら、予防防除を行いましょう。

4月1日～6月30日は「春の農業安全確認運動」の実施期間です。

スローガン「しめよう！シートベルト」

6月1日～8月31日は「令和4年度宮城県農薬危害防止運動」の実施期間です。

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名・対象病害虫や雑草、収穫前日数等の登録情報をラベルやウェブサイト等で確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って使用しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産省のウェブサイト（下記）※で確認できます。

URL（<https://pesticide.maff.go.jp/>）

※「農薬登録情報提供システム」の更新に伴い、令和3年3月10日より農林水産消費安全技術センターのウェブサイトから移動しています。